



## 秋本番～読み聞かせのすすめ～

校長 五十嵐 宰

澄み渡る空気が心地よく感じられる季節となりました。9月6日（土）に実施しました地域参観日には、たくさんの保護者・地域の皆様にご参観いただきありがとうございました。また、その後の秋まつりには、保護者の皆様のご協力をいただき、子どもも大人もとても楽しいまつりを味わうことができました。誠にありがとうございました。

さて、いよいよ秋本番。秋といえば「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」「芸術の秋」…と連想するものは人それぞれです。何をするにも気候がよく天気にも恵まれています。そこで、秋の夜長に各家庭での読書（音読も）や本の読み聞かせをおすすめします。

中でも、本の読み聞かせは、子どもの通常の読書と同様、語彙力が増えるなど有意義であるといわれます。成長するにつれ、幼児期の無邪気さは徐々になくなってしまいますが、だからこそ、子どもの気持ちに触れることのできる読み聞かせは、保護者にとっても大切な時間になるそうです。それは、高学年にもあてはまります。勉強や友人関係が難しくなったり、習い事などで忙しくなったりしたとき、読み聞かせは、ちょっと

ホッとした時間になるのだそうです。では、どんな本を選んだらよいのでしょうか。それは、「知的好奇心に応える本」「心情に訴える本」に分けて考えると、探したり選んだりしやすいといいます。日頃から、子どもがどんなことに興味や関心を抱いているのか意識すると、子どもに合った本を選びやすくなります。また、例えば、星座の本を読み聞かせ、子どもが興味を持ったなら、一緒に総合博物館に行ってプラネタリウムを観て、気づいたことがあれば、さらに本や図鑑などで調べようと促すと効果的であるといいます。

10月27日から10月31日は、読書週間です。本校では11月は読書月間となっています。読書月間には、図書委員会が本の紹介や絵本の読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアター等、みんなが本に慣れ親しむ取組を行います。

何をするにも心地よい季節。この秋はテレビやゲームを少しお休みして、家族みんなで読書をしたり、読み聞かせをしたりする時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。

